

Ⅱ ダム本体工事へ向けた対応について

令和3年3月

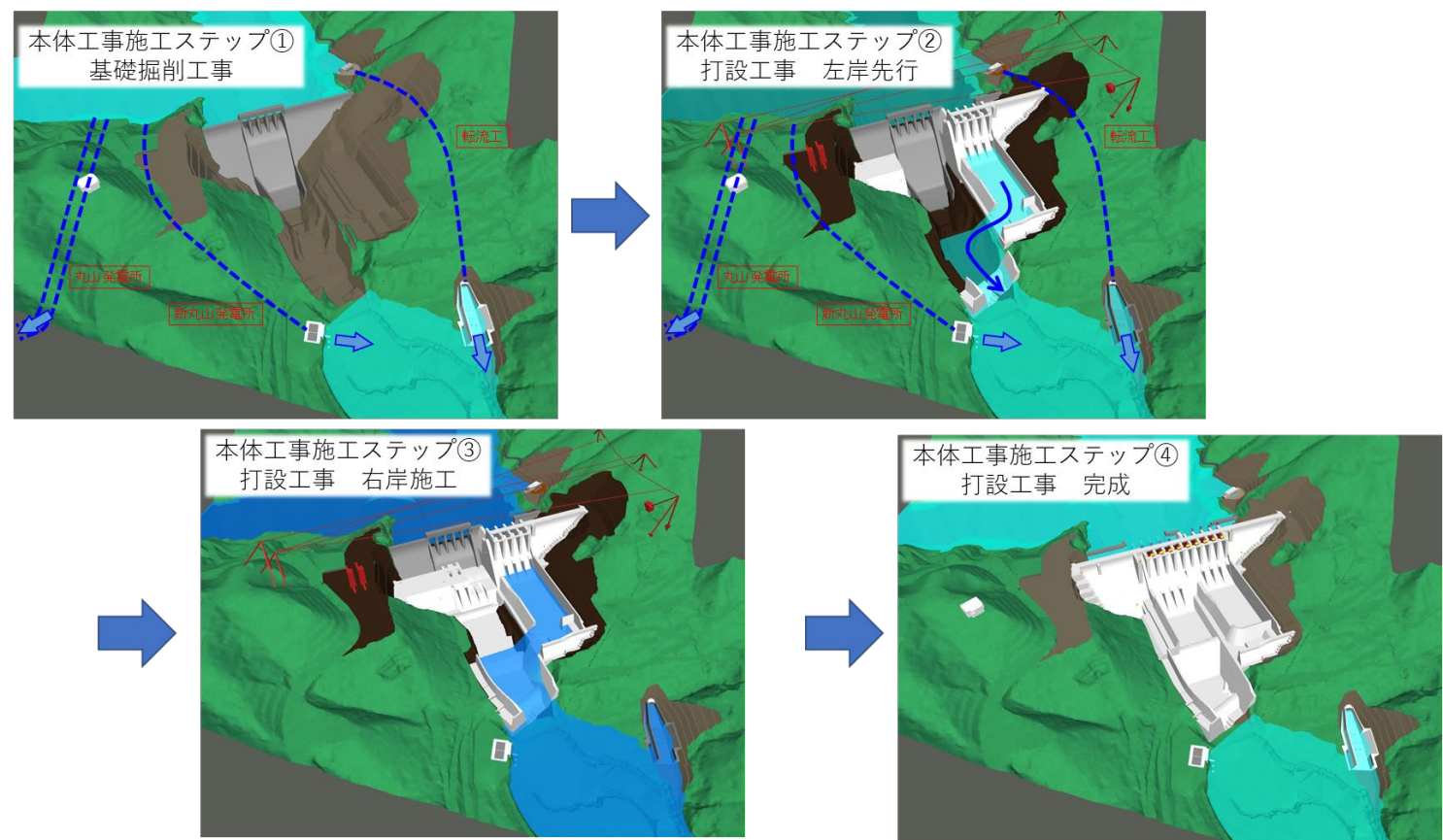
国土交通省 中部地方整備局
新丸山ダム工事事務所

■ Ⅲ ダム本体工事へ向けた対応(事業の進め方)

- 令和2年度、付替道路、ダム本体準備工事の段階から、ダム本体工事に着手しました。
- ダム本体工事の進め方は、既設丸山ダムの機能の維持及び施工時の安全確保に向け、左岸部を先行的に完成・運用したのち、右岸部を施工する手順で進めます。



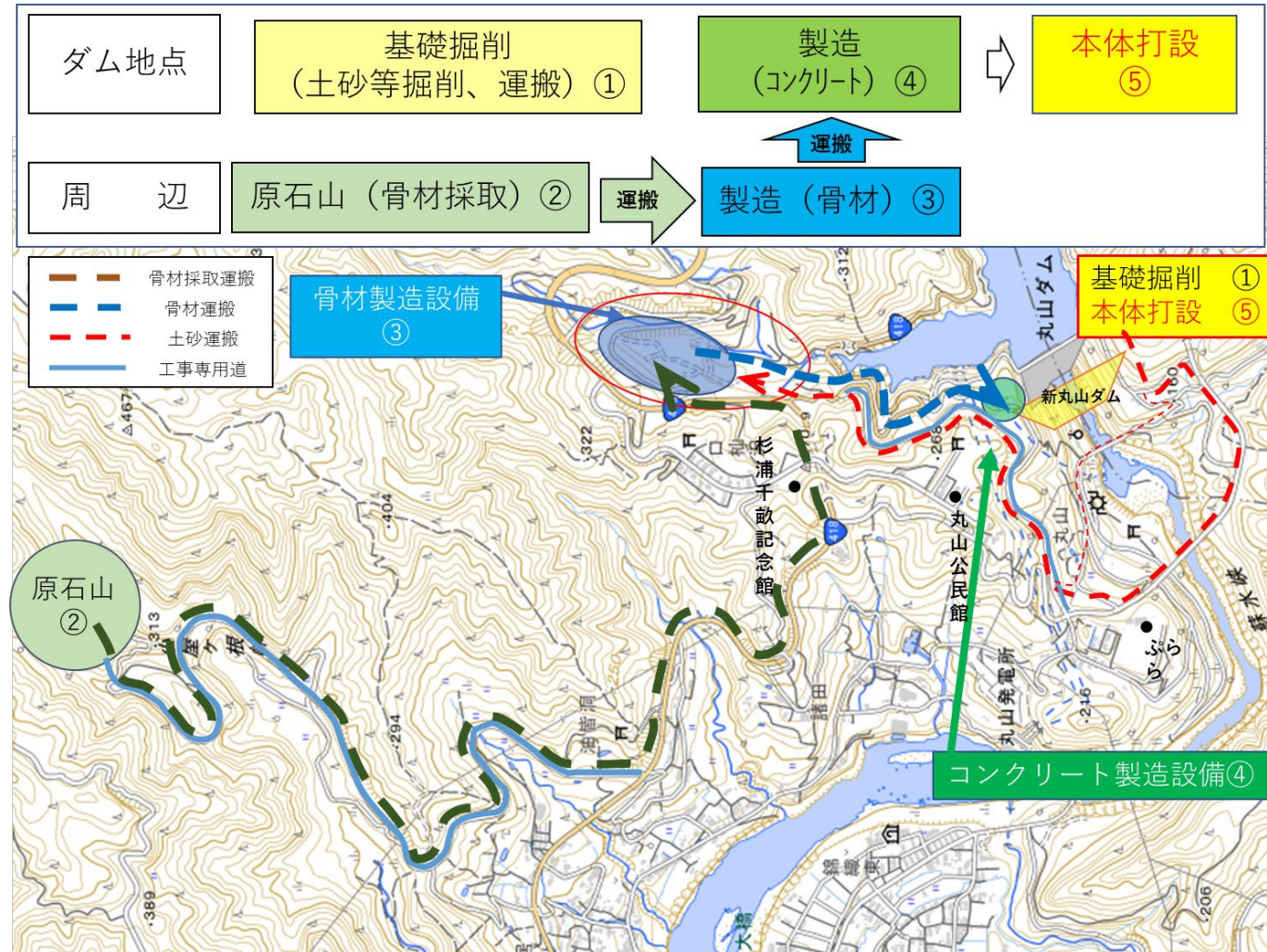
完成予想図



施工ステップ

■ Ⅲ ダム本体工事へ向けた対応（事業場所等）

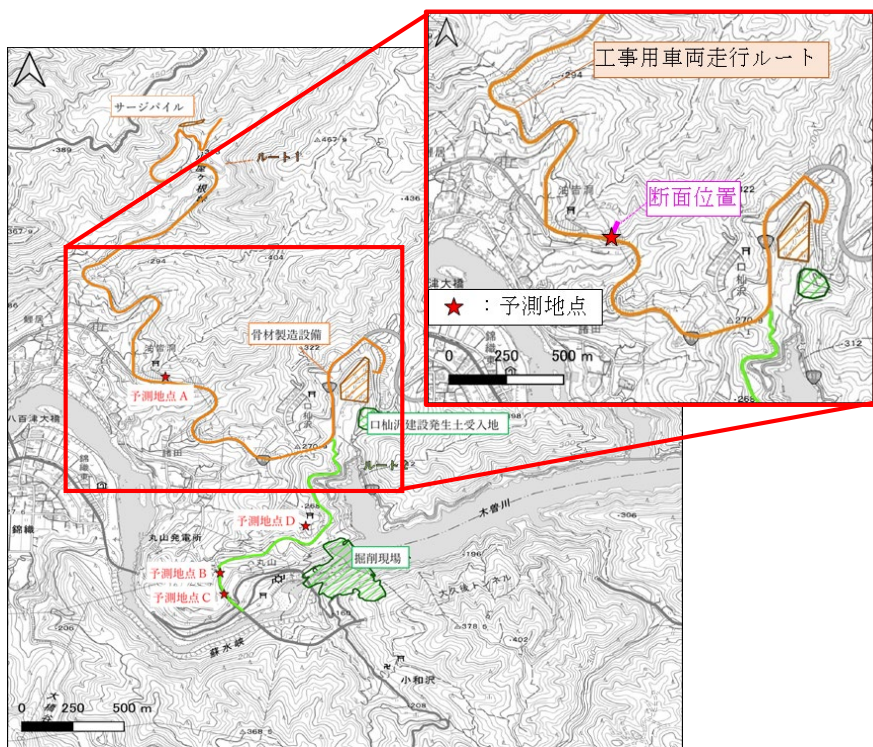
- ダム本体工事は、主にダム地点及び骨材採取を行う原石山、建設発生土の受入地にて施工を進めます。
- ダム地点では基礎掘削、コンクリートの製造と打設、原石山で採取した骨材は建設発生土受入地内に設けたプラントにて骨材製造を行い、この3地点間での運土を行います。



■ Ⅲ ダム本体工事へ向けた対応(事前調査等)

● 大気環境

大気環境(大気(粉じん)・騒音・振動)への影響低減に向け、ダム地点と原石山からの運土ルートにおける予測地点の追加及び再シミュレーションより、基準値内であることを確認しています。



粉じん等(降下ばいじんの付与量)の予測結果

予測地点	地点の詳細	降下ばいじんの寄与量 [t/km ² /月]				評価の基準 ¹⁾
		春季	夏季	秋季	冬季	
A	資材等の搬出入ルート沿いの民家(油皆洞集落)	5.06	6.37	5.62	3.74	10 [t/km ² /月]以下
	資材等の搬出入ルート沿いの民家(油皆洞集落) ※保全措置として散水対策を実施	0.25	0.32	0.28	0.19	

資料1) 粉じん等(降下ばいじん)の指標として、住民の生活環境を保持することが特に必要な地域の指標20 [t/km²/月]以下(出典:スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について)がある。この指標から工事以外の要因による降下ばいじん量を除いた値を降下ばいじんの寄与量の参考値(=評価の基準:10 [t/km²/月])として設定した。

道路交通騒音の予測結果

予測地点	等価騒音レベルL _{Aeq} [dB]		環境基準 [dB]	要請限度 [dB]
	現況の等価騒音レベル	工事実施時の等価騒音レベル		
A	65	67	70以下	75以下

注1) 昼間(6時~22時)の値を示す。
 注2) 現況の等価騒音レベルは過年度の調査結果を用いた。
 注3) 環境基準:環境基本法に基づく騒音に係る環境基準(幹線交通を担う道路に近接する空間についての特例値)を示す。
 注4) 要請限度:騒音規制法に基づく自動車騒音の要請限度(b区域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する区域)を示す。

■ III ダム本体工事へ向けた対応(事前調査等)

●動物(鳥類)

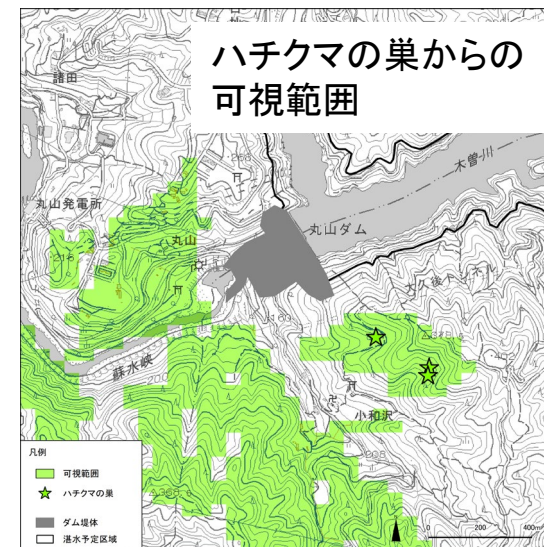
- ・鳥類の生息環境に向けては、ダム地点で渡来するハチクマ(5~8月)、サシバ(4~7月)、原石山に飛来するハチクマ(5~8月)、オオタカ通年(繁殖期は2月~7月)の生息を確認しており、継続的な渡来及び繁殖行動を確認しています。
- ・生息地付近における工事施工時に、騒音、振動、営巣地からの視認性及び生息状況について調査し、生息状況に変化がないことを確認しています。
- ・今後も、営巣地と工事施工箇所との位置関係や視認性を検証するためのモニタリングを継続します。

【ダム地点】

事業地に生息する期間

		時期	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハチクマ	一般のハチクマの繁殖サイクル*3	無	無			小	大	極大	大	中	小	無			
	一般的なサシバの繁殖サイクル*3	無	無			小	大	極大	大	中	小	無			
	一般的なハチクマの繁殖サイクル*3	無	無			小	大	極大	大	中	小	無			
サシバ	一般的なハチクマの繁殖サイクル*3	無	無			小	大	極大	大	中	小	無			
	一般的なサシバの繁殖サイクル*3	無	無			小	大	極大	大	中	小	無			
	一般的なサシバの繁殖サイクル*3	無	無			小	大	極大	大	中	小	無			

注)
 *1 繁殖の開始が早い場合の敏感度
 *2 繁殖の開始が遅い場合の敏感度
 *3 前橋営林局編(1998)オオタカの営巣地における森林施業 生息環境の管理と間伐等における対応, 社団法人日本林業技術協会.
 *4 環境庁自然保護局野生生物課編(1996)猛禽類保護の進め方ー特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについてー.

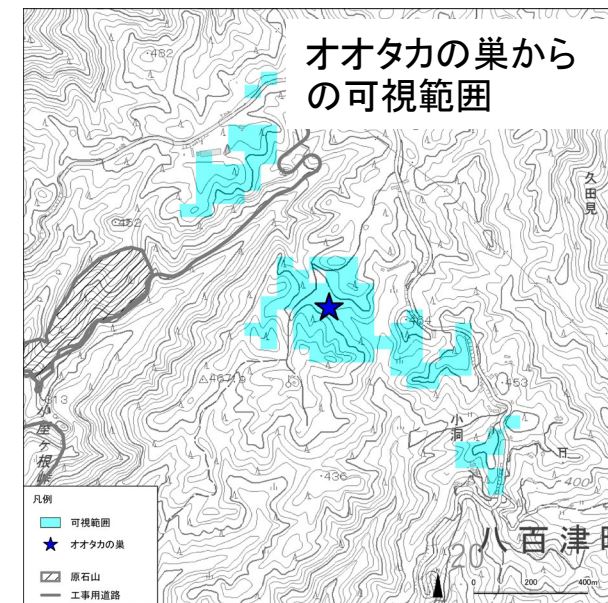


■ Ⅲ ダム本体工事に向けた対応(事前調査等)

【原石山】

		事業地に生息する期間												
時期		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
オオタカ	敏感度*1*3	小	中	大	極大	大	中	小						
	一般的なオオタカの繁殖サイクル*3	非繁殖期		求愛	造巢	抱卵	巣内育雛期	巣外育雛期	非繁殖期					
	敏感度*2*3	小	中	大	極大	大	中	小						
ハチクマ	敏感度*1*3	無		小	大	極大	大	中	小	無				
	一般的なハチクマの繁殖サイクル*3	非繁殖期(東南アジア)			渡りの時期	求愛	抱卵	巣内育雛	巣外育雛	渡りの時期	非繁殖期(東南アジア)			
	敏感度*2*3	無		小	大	極大	大	中	小	無				

- *1 繁殖の開始が早い場合の敏感度
- *2 繁殖の開始が遅い場合の敏感度
- *3 前橋営林局編(1998)オオタカの営巣地における森林施業 生息環境の管理と間伐等における対応, 社団法人日本林業技術協会.
- *4 環境庁自然保護局野生生物課編(1996)猛禽類保護の進め方ー特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについてー.



■ III ダム本体工事へ向けた対応(事前調査等)

●植物

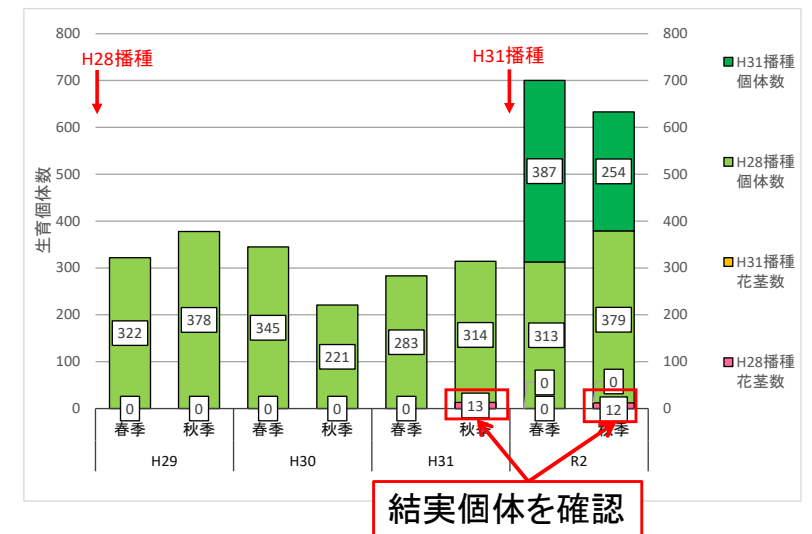
・保全対象種の生育状況の確認に向けては、事前調査により新たに、ダム地点で2種(ツメレンゲ、ムヨウラン)を確認し移植・播種を実施しました。また原石山で確認された2種(コウショウノキ、カラタチバナ)については対策方法を検討していきます。

◆ツメレンゲ(H28、H31の2回播種)

- ・発芽から3年後に開花・結実するため、播種後3年目まで生育個体数、結実有無を確認します
- ・モニタリング期間は追加播種の3年後の令和4年度まで実施します
- ・移植3年(R元)、4年後(R2)に移植個体の結実を確認しています

◆ムヨウラン(H28に移植)

- ・寄生植物のため移植は難しく、試験的に周囲の土ごと個体を移植しました
- ・モニタリング期間は移植後3年の令和元年度まで実施しました
- ・個体の定着は未確認でしたが、移植地外に生育個体を新たに確認しました



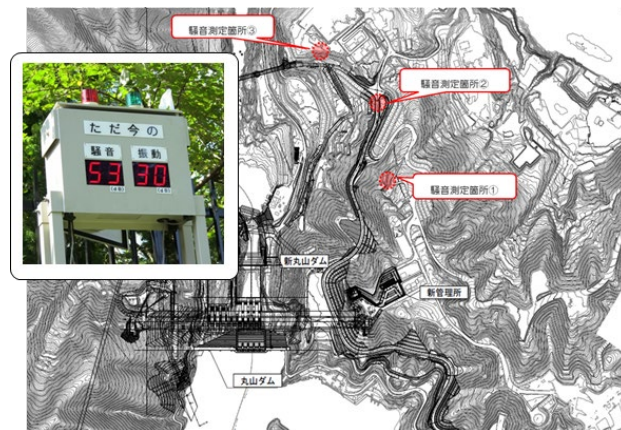
■Ⅲ ダム本体工事へ向けた対応(モニタリング調査方針)

●大気環境

・工事中の騒音・振動の低減のため、ダムサイト4地点に常時モニタリング機器を設置し、騒音・振動値を監視します。

●水環境

・工事中の濁りの低減のため、ダム上下流5箇所において水質調査(SS)を実施します。



●動物

- ・ダム本体: サシバ、ハチクマを対象とした生息・繁殖確認を目的としたモニタリング調査を実施します。(6~8月、計2回)
- ・原石山: ハチクマを対象とした生息・繁殖確認を目的としたモニタリング調査を実施します。(7~8月、計1回)
- ・横坑にて確認されているコウモリ類について、施工時の状況を確認しつつ対応を図ります。

●植物

- ・移植したツメレンゲの移植個体の定着率、結実率をモニタリングします(5、10月、計2回)
- ・原石山工事用道路の延伸部における重要な種の生育有無を確認します。
- ・原石山予定地に生育するマツグミ、タチキランソウの再確認及び移植を実施します。

■Ⅲ ダム本体工事へ向けた対応(対応方針)

- ・ダム本体工事にあたっては、本体工事に向けた事前調査結果を踏まえつつ、地域の暮らしを念頭に、環境保全に向けた取り組みを継続して進めていきます。
- ・取り組みにあたっては、モニタリング等を継続し、掘削やコンクリート打設などステージの途中や節目などの時点において、委員会に助言を得ながら進めます。